

稲作生産情報第6号

令和8年7月21日
青森県「農林水産力」強化本部

- 茎数はやや多く、幼穂形成期は平年並に到達しました！
- 気温や稲の生育に応じた水管理をしっかりと行おう！
- いもち病や斑点米カメムシ類の防除を徹底しよう！
- ツキノワグマ出没警報発令中なので、農作業の際は、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めよう！

1 県生育観測ほの生育状況

- ・ 7月15日現在の生育は、平年と比較して、草丈が並、㎡当たり茎数はやや多かった。
- ・ 幼穂形成期は7月8日で平年並であった。

表 県生育観測ほの7月15日現在の生育状況

品種名	地域 (地点数)	草丈(cm)			株当たり茎数(本/株)			㎡当たり茎数(本/㎡)			葉数(枚)			幼穂形成期		
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
まっしぐら	津軽(8)	72.6	71.1	102	25.3	23.3	109	487	467	104	11.5	11.0	0.5	7/7	7/8	1日早
	県南(6)	71.5	70.2	102	22.9	21.5	107	464	449	103	11.2	10.8	0.4	7/9	7/9	平年並
	全県(14)	72.1	70.7	102	24.3	22.5	108	477	459	104	11.3	10.9	0.4	7/8	7/8	平年並

(注1) 各農林水産事務所農業普及振興室調査。
(注2) 平年値は地点により異なり、過去3～21か年の平均。

2 出穂期の見通し

- ・ 7月15日以降の気温が平年並に推移した場合、「まっしぐら」の出穂期は早い地点で7月29日頃からと予想される。

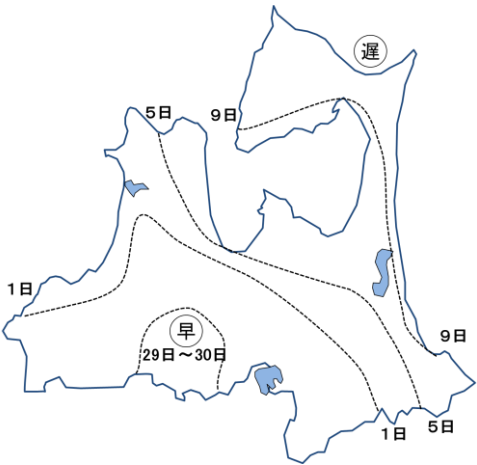


図 出穂期の予測

(注) 農なび青森「水稻生育予測」で以下の条件で予測。
・ 「まっしぐら」を基準とした。
・ 各市町村の田植最盛期(県調査)を田植日(移植日)とした。
・ 田植時の葉数は3.3枚とした。
・ 気温データは最寄りのアメダスデータで、7月14日まで本年値、以降は平年値を使用した。

1 水管理

(1) 出穂前

- ・主茎の葉耳間長 4 cm から出穂期までの期間は、水の入れ換えを行いながら 4 cm 程度の浅水管理を基本とし、収穫時にぬかるみやすいほ場では 1 週間程度落水し地固めをする。
- ・低温（日平均気温 20℃以下、または最低気温 17℃以下）が予想される場合は、障害不稔発生防止のため、15～20 cm程度の深水管理を徹底し、落水は行わない。

(2) 出穂・開花期

- ・出穂・開花期は、稲が最も水を必要とする時期になるので、出穂後 10 日間は 5～6 cm程度の水深とし、低温（日平均気温 20℃以下）となる場合は、障害不稔の原因となるので、10 cm程度の深水にして保温する。
- ・開花終了後に高温となる場合は、各地域の用水の状況に応じて、水の入れ換えや飽水管理によって地温を下げ、根の活性を維持する。

※「飽水管理」：浅水に入水し、自然に減水して溝や足跡に水がたまっている箇所が散見される状態になったら、再び入水することを繰り返す管理。

(3) 登熟期

- ・高温の場合は、2～3 cm程度の浅水とし、なるべく遅くまで水を与えるようにする。
- ・湿田や秋落田では、根の老化を防止するため、掛け流しや土壤に軽く亀裂が入る程度の間断かんがいを行う。
- ・低温（最低気温 15℃以下）が予想される場合は、10 cm程度の深水にする。

(4) 落水時期

- ・落水が早すぎると屑米が増加するとともに、胴割米の発生を助長し、品質が低下することから、湿田では出穂後 20～25 日、乾田では出穂後 30～35 日を目安とし、早期落水を避ける。

2 病虫害防除

(1) いもち病

- ・曇雨天が続くと発生が多くなるので、葉いもちの早期発見・早期防除に努め、穂いもちの感染源となる上位葉への感染を防ぐ。また、穂いもちは予防を基本とし、防除適期を逃さないようにする。

ア 茎葉散布剤による防除

- ・出穂直前（走り穂が見えたとき）と穂揃期（ほ場の 8 割の穂が出穂した時期）の 2 回散布を基本とする。
- ・低温により出穂期間が長引いた場合は、穂揃期に達していなくても出穂直前散布 7 日後頃に散布する。
- ・上位葉で葉いもちが多発している場合など、穂いもちの多発が予想される場合は、穂揃期 5～7 日後にも追加散布する。

イ 水面施用剤による防除

- ・水面施用剤ごとに使用時期が異なるので、よく確認して使用する。

ウ 耐性菌対策

- ・同一系統剤の連続使用は耐性菌の発生リスクを高めるので、以下の薬剤は育苗期から本田期を通じて年 1 回の使用にとどめる。

表 同一系統剤とみなされるグループ

グループ	薬剤名
QoI 剤	オリブライト剤、アミスター剤

(2) 斑点米カメムシ類

- ・県内で斑点米を発生させる主なカメムシは、アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメで、気温が高いと発生量が多くなる。
- ・斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生量が多くなっているため、令和8年7月10日付けで青森県病害虫防除所より、令和8年度病害虫発生予察情報注意報第1号が発出された。今後も斑点米カメムシ類の発生に好適な気象条件が続くと予想されることから、防除を徹底する。
- ・地域ぐるみの防除や広域一斉散布により防除効果を高め、休耕田も対策を徹底する。
- ・出穂間近の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田に追い立てることになるので出穂7日前には終了する。
- ・出穂後に畦畔などの草刈りを行う場合は、周辺水田において、ネオニコチノイド系またはフェニルピラゾール系の殺虫剤散布直前から1週間以内をめどに行う。また、合成ピレスロイド系及び有機リン系殺虫剤の場合は、1回目の散布後すみやかに草刈りを行う。

ア 茎葉散布剤による防除

(ア) 1回防除体系

- ・薬剤ごとに定められた使用時期に応じて適期防除を行う。
- ・高温年など登熟後期に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

(イ) 2回防除体系

- ・合成ピレスロイド剤、有機リン剤などを使用する場合は、1回目の防除を穂揃期に行い、その7～10日後に2回目の防除を行う。
- ・登熟後期に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、2回目防除の7～10日後に追加防除を行う。

(ウ) 留意点

- ・天候不順により登熟が遅れる場合は、散布時期を遅らせる。

イ 水面施用剤による防除

- ・水面施用剤は周辺作物への農薬の飛散が懸念される場合などに使用する。
- ・薬剤ごとに定められた使用時期に応じて適期防除を行う。
- ・天候不順により出穂期間が長くなると予想される場合は、各薬剤とも散布時期を5日程度遅らせる。

3 ホールクロップサイレージ（WCS）用イネ及び飼料用米の病害虫防除

(1) WCS用イネ

- ・いもち病及び斑点米カメムシ類の防除には、農林水産省農産安全管理課農薬対策室ホームページに掲載されている農薬を使用する。
- ・なお、農薬の使用に当たっては、当該農薬ラベルに記載されている「収穫〇日前まで」という使用時期の「収穫」をWCS用イネの収穫（黄熟期）にそのまま適用するため、防除可能な期間が食用イネより1週間～10日程度早まることに留意する。

(2) 飼料用米

- ・粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給与する場合は、穂が見える前までに散

布を終える。

- ・出穂期以降に農薬の散布を行う場合には、使用できる農薬の種類や使用時期などを指導機関や契約先に確認する。

4 薬剤散布上の注意

- ・クリーンライスや特別栽培米などは、それぞれ定めた農薬の使用計画を確認し、その範囲内で使用する。
- ・散布の際は、薬剤の使用時期、量、回数を遵守するとともに、近隣の転作大豆、野菜、WC S用イネなどの農作物に飛散しないよう十分注意する。
- ・農薬を使用した水田では、防除効果の安定と水質汚染防止のため、散布後7日間は落水や掛け流しは行わない。
- ・農薬による蜜蜂への危害防止のため、薬剤散布前に周辺の養蜂業者に防除計画を知らせるなど積極的に情報交換を行う。
- ・蜜蜂を放飼している地域周辺（蜜蜂の行動範囲は巣箱から2 km 程度とされている）では、農薬ラベルに蜜蜂に対しての毒性を示す「ハチ巣箱への散布禁止マーク」のついた農薬の使用を避ける。

ハチ巣箱への散布禁止マーク
(蜜蜂注意)



5 大雨・台風対策

- ・大雨に備えて排水路や畦畔の点検を行う。
- ・台風通過時に高温・乾風が予想される場合は、6 cm程度のやや深水にして稲体の水分を維持し、乾燥による不稔の発生などを抑制する。
- ・冠水や浸水した場合は速やかに排水し、土砂の流入などがあつた場合はすみやかに排除する。
- ・倒伏した場合は、なるべく早く稲株を引き起こし、登熟の促進に努める。
- ・海沿いの水田で潮風害を受けた場合は、直ちに散水して塩分を洗い流す。

6 収穫の準備

- ・本年は、今後高温の予報となっていることから、収穫時期が早まる可能性がある。
- ・現段階から早めの収穫を想定し、コンバインや乾燥調製施設等の掃除・点検・整備、試運転は早めに実施する。

~~~~令和8年度青森県農薬危害防止運動展開中！（6月1日～8月31日）~~~~

- 農薬を使用する前には必ずラベルを確認し、使用基準を守って使用しましょう。
- 水田で使用した農薬が河川に流出しないよう、農薬使用後7日間は止め水し、落水やかけ流しはやめましょう。
- 農薬の散布は風の弱い日や時間帯を選び、散布の方向や位置に気をつけるなど、周辺の農作物、学校、畜舎、ミツバチなどに飛散しないようにしましょう。
- 養蜂が行われている地域では、農薬の使用時期や巣箱の位置などについて養蜂家と密に情報交換し、ミツバチの活動が盛んな時間帯（午前8～12時）を避けて散布しましょう。

~~~~~環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう~~~~~

- みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。
認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の優先採択などのメリットがあります。
- 申請・お問合せは、最寄りの農林水産事務所にご相談ください。
(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html)

~~~~~熱中症予防運動展開中！（6月1日～8月31日）~~~~~

- 農林水産業分野での熱中症による救急搬送された方は近年増加傾向にあります。  
これからの暑い季節は、農作業中に熱中症になるリスクが大きくなりますので、安全な農作業に努めるとともに、体調に気を付けましょう。

~~~~~労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されました~~~~~

- 昨年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。
- 熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。
「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。

~~~~~ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日）~~~~~

- 1人での作業できるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。詳細は県ホームページをご確認ください。  
([https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma\\_cyuu.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuu.html))

~~~~~登録品種の種苗は適正に利用しましょう~~~~~

- 登録品種の種苗・収穫物等を利用するには、原則として権利者の許諾が必要です。
育成者権者の許諾を得ずに、自家採取した登録品種の種苗を近所の農家等に配布することは種苗法に違反します。
他県で開発された品種は、作付けできる都道府県が限定されている場合があります。
- 登録品種かどうかの確認は品種登録ホームページ (<https://www.hinshu2.maff.go.jp>) で行い、正規のルートで種苗を入手しましょう。
- 育成者権を侵害すると民事請求を受けたり、刑事罰を科せられる場合があります。

~~~~~収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）に加入しましょう~~~~~

- ナラシ対策は、認定農業者等を対象に米（主食用米、備蓄米）、麦、大豆の当年産の販売収入の合計が、過去の平均収入を下回った場合に、差額の9割が補てんされる制度です。
  - 加入には、面積に応じた積立金が必要ですが、補てんが行われない場合の積立金は翌年に繰り越されるので、掛け捨てにはなりません。
  - 補てん金は、自然災害による減収分については農業共済に加入していることを前提に減額調整されるため、農業共済とのセット加入がお勧めです。
  - 収入保険に加入が難しい方は、ナラシ対策への加入を御検討ください。
- ※ 詳しくは、農産園芸課、東北農政局青森県拠点、市町村または農業協同組合へお問合せください。

~~~~~農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！~~~~~

- 農業保険には、農作物共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
 - 「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、自然災害等による収穫量の減少に対する損害を補償します。
 - 「農業経営収入保険」は、自然災害や価格低下だけでなく、農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補填の対象となる総合的なセーフティネットです。
(青色申告の実施が要件。1年分の実績があれば加入できます。)
- ※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問合せください。



| | |
|------|------------------|
| 連絡先 | 農産園芸課稲作・畑作振興グループ |
| 県庁内線 | 5073 |
| 直通 | 017-734-9480 |

◎次回の稲作生産情報の発行予定は9月9日（水）です。